

慶應義塾大学長谷部葉子研究会と八戸市との連携強化に向けた プラットフォームづくり報告書

2024年7月1日作成
慶應義塾大学環境情報学部1年
千田 広成

背景と目的

本プロジェクトは、長谷部葉子研究会2022年度秋学期末合宿を八戸市で開催したことをきっかけに始まった活動である。2024年4月に長谷部葉子研究会内に正式な「八戸プロジェクト」として発足した。

本プロジェクトの理念は「八戸圏域の未来へ続くワクワクをつくる」である。まちづくりを主軸に地域活動・教育活動に取り組むことで、全世代の未来へ続くワクワク、つまり地元八戸に対するポジティブなイメージと未来への希望を作り出し、若年層が地元に戻って地元で働くことを前向きに考えられるようなまちにすること、を目的としている。

若年層が地元に戻ってくることを目的とした活動であるが、若年層の地元に対するイメージは親世代から引き継がれるものがある。だからこそ、若年層などの特定の世代だけでなく、全世代に影響を与えるような活動とする必要があると考えている。

これらの目標に対して、2025年3月までに大きく以下の2つのマイルストーンを掲げている。

1つ目は、八戸市と慶應義塾大学との継続的な関わりを構築し、その関係性に公共性を持たせるための連携協定を結ぶことである。これにより、八戸市と大学との長期的な協力関係を確立し、地域社会に貢献することを目指す。

2つ目は、地域で精力的に活動する若者が横につながり、教育的視点からのアプローチがしやすい環境となる学生の活動拠点を八戸市内に作ることである。この拠点は八戸プロジェクト自身の活動拠点としても機能し、他大学や他研究会の学生も関われるコンソーシアム型のプロジェクト進行を可能にする。

この基盤づくりを行うことは、八戸市に対する価値だけでなく、塾生がまちづくり活動に参画することができる、実践知を得ることができる機会を増加させることができる。

八戸市では、学生を積極的に巻き込んだまちづくり活動が行われており、日本各地から大学などの研究機関が研究を目的として訪問している。慶應義塾大学と八戸市との活動の連携を公性のあるものとし、長谷部葉子研究会だけでなく塾生が幅広く機会を得ることができるプラットフォーム創造を目指している。

本助成金の申請対象となる活動は、上記の目標達成に向けた八戸プロジェクトの基盤作りの第一歩として位置付けられる。

活動内容と成果

1. 八戸・起業家養成プログラム(はちサポmeets)の参加者に対する説明・指導(八戸学院大学井上 丹氏等が主催)
 - a. 活動内容
 - i. 八戸にある起業家養成プログラムは、八戸市の若者の起業家精神を育むことを目的としている。ここで我々大学生の視点から、これまで長谷部葉子研究会にて積み重ねた実践経験を基に指導を行う。また八戸プロジェクトに関する説明を行う。これらを通して、参加者がまちづくりに関する知識やスキルを習得することを期待するとともに、八戸プロジェクトへの今後の有志協力者を募る狙いがある。
 - b. 活動成果
 - i. はちサポmeetsにて、長谷部葉子研究会の研究実践事例、活動事例の説明、各プロジェクトチームのメンター活動を行った。
 - ii. その中で、八戸中心市街地にて学生の活動拠点づくりを行いたいチームと協議を重ね、私たちの学生の活動拠点づくり活動と協働して実現することになった。
2. 熊谷雄一八戸市長との協議
 - a. 活動内容
 - i. 慶應義塾大学、長谷部葉子研究会、これまでの八戸プロジェクト前身活動の内容について報告しながら、今後の活動方針に関して意見交換を行う。市長との連携は、プロジェクトの公共性を高め、八戸市との長期的な協力関係を築く上で重要な役割を果たすと考えられる。
 - b. 活動成果

- i. 引き続き八戸市での活動を行っていくことを報告し、市のまちづくり担当課への表敬訪問も実施。担当のまちづくり推進課とは、今後の活動助成金の補助手続きに関する連携を確認した。
3. 弘前大学八戸サテライトとの協議
 - a. 活動内容
 - i. 活動用大学同士の連携協定を見据えた協議を行う。弘前大学は青森県にある国立大学であり、また八戸のサテライトキャンパスを構えているため、この連携協定は、より広域的な活動の展開を可能にすると考えられる。
 - b. 活動成果
 - i. 弘前大学八戸サテライトが今までやっていた地域のまちづくり人財育成を目的としたセミナーと、私たちのこれまでの地域活動経験を活かし、共催で地域人財育成セミナーの開催を今後進めていく方向になった。
4. 八戸市教育委員会(以下、市教委)への訪問・協議
 - a. 活動内容
 - i. 長谷部葉子研究会は教育を切り口としてきたことから、今後の可能性拡大を見据えて教育委員会への訪問を行う。長谷部准教授とともに教育委員会へ伺い、公教育と八戸プロジェクトの今後の連携についてなどにも協議を重ねる予定である。
 - b. 活動成果
 - i. 市教委が進めるコミュニティスクール構想と、私たちが行いたい街に貢献できる地域人材の育成に関する地域教育の実施の思いが重なり、八戸市立是川小学校、八戸市立是川中学校において、総合的な学習の時間での授業の実施が決定。
 - ii. 7月中旬に、対面で両校の授業と生徒の様子の視察、担当教員との打ち合わせを実施する予定。
5. 市内中学校・高等学校への訪問・視察
 - a. 活動内容
 - i. 八戸の特色ある地域教育に関する知見を深めることで、現場を知ること目的とする。若者が活躍するまちづくりや、その場づくりに関するアイデアを醸成することが目標である。
 - b. 活動成果
 - i. 八戸工業大学第二高等学校での、今後の授業実施に関するミーティングを実施。
 - ii. 夏休み明けに、総合的な探究の時間にて、地域教育の観点から授業を実施する予定。
 - iii. 市内中学校の視察に関しては、7月中旬に実施する予定。
6. 八戸市の高校生・大学生の活動拠点づくり
 - a. 活動内容
 - i. 八戸市内で課外活動や起業活動などを行う高校生・大学生及び、八戸市に訪れる大学や研究機関が活動拠点として利用できる施設をつくる。これは、市内外の若年層のリソースを集中させ、八戸市及びその周辺地域のまちづくり活動を加速させることに寄与することができる。
 - b. 活動成果
 - i. 滞在中に、学生の活動拠点づくりに関して意気投合した大学生、高校生らと、リノベーション予定の場所を視察。今後の活動については、現地の高校生や大学生らと協働しながらリノベーションの計画などを進め、実行していく予定。
 - ii. ビルの消防設備の改修を待ち、今年度夏季休業中のリノベーション完了を目指す。

謝辞

今回の滞在を行うにあたり、以下の皆様をはじめとし、多くの皆様に大変お世話になりました。八戸市長 熊谷 雄一様、八戸市教育委員会教育長 齋藤 信哉様、八戸市総合政策部次長兼政策推進課長 安原 清友様、八戸市教育委員会 日向端 聖様、八戸学院大学講師 井上 丹様、株式会社Point Five 代表取締役 野田 賀一様、弘前学院大学八戸サテライトコーディネーター 佐藤 公嗣様、大沢 英教様、八戸工業大学第二高等学校 教諭 出戸 寛様、八戸中心市街地ビルオーナー 類家 真澄 様、早稲田大学社会科学部2年 古井 茉香様 他地域の皆様。今後の八戸での活動を行なっていくにあたり、大変重要な皆様です。今後の活動の協働を行うにあたり、皆様との連携を常に行い、地域の未来のためになる活動を展開します。